此の裁判を見よ

物證なき非現行犯　然るに判決は有罪

既報宜蘭警察の拷問、誘導訊問等の術策を以て作成された賭博犯事件は、卽決處分に不服なる被疑者等の正式裁判請求により、その後宜蘭出張所に於て取調中の處、本月十八日午前十時よりその最後の審理手續を該裁判所に於て公開した、事件は平地に風波を起し、自からの功を急ぎ、上官の歡心を買はんが如き性質を持つた、手製式なるを以て街民の注目を引き、傍聽者殺到し、公判開廷前既に廷外にあふれた程であつた。

古屋辯護士被告辯護入立合の上開廷、被告人莊金英外五名、證人太田巡査(該事件の告發者)外七名の呼出あり、宣誓後證人一同の退廷を命じ

證人太田巡査より順次訊問に入る、太田巡査「六月四日午後二時頃、保安森の中で賭博をやつて居ることさを聞き込、私服に着換へて森の手前まで出て來た處、四五人の男が出て來た。その中の吳阿源を捉へて問ふて見たら、之から芝居を見に行くさ云つた。金を少し持つてゐた。外の人達は路をそれてわきへ行つた。賭博道具を持つて居る樣に見えません。それを押へることも出來ませんでした。その後色々さ證據を搜査して居ると、廖阿慶が出した三百圓の小切手が保險證券であることや、金時計を渡した事がわかり、吳阿路を嫌疑者さして擧げて取調べて行く中に「二月十七日(舊正月元旦)さ三月二日(舊正月十四日)の二回に渡り、午後七時頃より、十時頃まで夫々魏呆廖阿慶の家で賭博をやつた事がわかつたので六月八日告發をしたのです云々」さ

林新章「正月元旦は自宅で午後六時頃から九時過ぎまで友達を呼んで御馳走を致しました、二棹で客は二十人前後、その中には太田巡査や外に被告數人も來て居りました云々」

魏呆「私が卽決に對して正式裁判を請求しないのはそれによつて何時も呼出や取調に會ふよりは、自分で仕事してもうけた方が早いさ思つたからです。警官の尋れることを一一認めたのは老年で病弱な自分は拷問に堪えませんからです。檢察官に對しても同じ理由で否認しませんでした。

他の證人も皆印で押した樣な一致した證言で事實を述べ、不在證明をして居り、更に被告さして眞先に此の事件の發端さして取調られた吳阿路蔡阿一は同樣に「之等の被告の名は自分達から申したのでありません。警官の言つた儘を認めたのです。さうしなければ拷問されますから云々」さ

檢察官は告訴通り被告莊金英吳秋燕、各十五圓の科料、廖阿慶、吳長料、蔡阿一、吳阿路各二十圓の罰金を求刑した

右屋辯護士の辯論

本事件に對しては各被告人に無罪の御宣告あることをお願ひします。その理由は本件は砂上に築かれた樓閣の樣なもので、賭博犯の必要條件たる現行犯を取押へたのでもなく、又物的證據も何に一つありません。その告發に基いた本件は無罪なることは極めて明白です。又證人の證言によつて不在證明があり、告發者太田巡査も賭博ありさ自分から告發した時刻には、被告の二三人さ同席、人の招宴に列して居ることから見ても、此の告發の信を置くに足らぬこさがわかります。此の事件は極めて簡單明瞭なもの故、無罪の御判決あらんことをお願申ます」さ

判決言渡は廿日に確定されて閉廷した。

廿四の判決を見ると、檢察官の求刑通り言渡があつた。

斯くの如く有罪として何等の物的證據なきは勿論心的證據をも握り得ぬ事件を檢察官の求刑通り言渡したる判決に對し、被告等は何れも不服、直ちに古屋辯護士を通して控訴する事にした。

仄聞する所によれば、宜蘭警察では十八日の公判後、此の事件は必ず有罪にして見せるを公言して居た。そして判決はその通りになつた。

暴利を貪る「郵商船ユニオン」

補助金を取上げろ　辰馬客船を廻さん

世界的不景氣の影響を受けて凡ての物價が著しく下落したのに、獨り昔日の好景氣時代の夢から醒め切らずに、船賃を下げないのが船會社である。彼等は、海運界不況に藉口して、時勢に逆行して迄暴利を貪らうとして居るのである。一例を擧げて見れば、臺灣航路たる基隆神戶間の郵商船協定の旅客の船賃は、數年前以來の三等二十圓の儘である。更に貨物の運賃に就いて云へば、一噸に付き六圓四十八錢取つてるが、之も昨年の七圓二十錢に比ぶれば僅かの値下にすぎない。而も郵商船のユニオンは臺灣航路に、毎年總督府から百六十餘萬と云ふ尨大な補助金を貰つて居るのに、その運賃は補助一文も貰つてない辰馬汽船に比べて高いのは箆棒な話であり、言語同斷である。以て彼等が如何に暴利を取つてをり、總督府の豫算を負擔してをる臺灣住民大衆を如何に間接的搾取してをるかが窺はれる譯である。

昨年臺灣の大宗貨物たる移出米の運賃に付いても、側から辰馬が割込んで來て競爭した爲めに、運賃を余儀なく下げた程である。それでも阪神迄一袋(百斤建)の運賃が昨年三十五錢だつたのを今年になつて僅か五錢しか下げてゐない狀態である。更に甚しい例を一つ茲に擧げよう。臺北市大稻埕の某商人の話に依れば、一箱百足入の草履の運賃に、郵商船では六十二錢取つたのに、辰馬の方ではその半値以下の二十九錢しか取つてないさうだ。內臺間の航路を殆ご獨占させてをる上に補助金をうんと貰つてる郵商船の暴利振りに、臺灣の民衆が攻擊の矢を放つのも當然である。辰馬は前に述べた樣に運賃が安い許りでなく、貨物の才數でも割引してをるから實際上は更に安い譯だ。或消息通の談に依れば、總督府の補助金を仰ぎたくない辰馬は、自力獨行でやつて行く。此迄は貨物のみ載んで居つた辰馬は、來年の春から新造に係る優秀な客船を二艘廻して神戶基隆間を定期的に航海し、以て旅客の方面にも積極的に活躍するさうである。此に元氣付けられた臺北總商會では、此間出來た基隆總商會と步調を揃へて全島各地の商工協會と聯絡をとり、以て辰馬の好意的活動を援助すると同時に大々的に郵商船の獨占的暴利を攻擊すべく努力しようとする模樣である。尙一千萬圓に近い總督府豫算上の赤字問題を解決する見地から觀ても、郵商船に對する巨額の補助金を斷然廢止すべきである。

滿洲事變と宗教

洲　鰲

滿洲事變に就いては種々な見方があるが中國側の條約無視に對する日本の權益擁護を中心問題さし、張學良麾下の滿鐵線破壞を動因さして自衞權を發動したものであるさ云ふ事に日本ブルジョアジーの新聞の報道は一致してゐる。勿論滿洲の豐饒なる曠野さ市場さが×米英佛の諸大國の帝國主義的侵略の目標さなつて來た事は歷史的に示されてゐる事である。然し乍らかゝる歷史の歩みの中にかくれてる宗敎に就いては多くの人が見逃してゐるやうだ。

改めて云ふまでもなく各國の宣敎師たちが、その國家のスパイであつて常に帝國主義侵略の前衞さなつて來たのは周知の事である。

日本の大本（人類愛善會）が大正十二年以來中國道院（世界紅卍字會）さ連絡し、現在では大本總統補出口日出麿が道院の扶乩（中國流の御筆先）に由つて全中國責任統掌てふ總帥位を授けられ、奉天に滯つてゐる彼の號令は六百萬の中國人信者を左右し得る勢を作り滿洲事件發生以來人心の收攬、駐屯日本軍の慰問等に多大の効績を擧げ、且つ活動綱を擧げ大本首腦格の瑞祥會主理學博士土井上留五郎、元滿鐵囑託法學士土谷村正友、大本總務松並高義、甍沼泰一の人達に日出麿隨行の大本女宣傳使筆頭加藤明子、宇城省向宣敎使を加へ殆んご大本の精銳を率ゐ滿鮮、滿鐵、北滿、東滿に差向けて大飛躍を演じてゐるが更に內地からは人類愛善會長出口宇知麿が重大任務を帶び奉天に向つて出發したさ日本の宗敎日刊紙は報じてゐる。

一方黑龍會主幹內田良平は日本軍の滿洲出動後の人心緝和に愛善會さ紅卍字會が協力一致して盡した實情に鑑み大要左の如き意見書を政府に送つた。

滿洲に於ける中國官民の思想は新舊二派に分れ、舊派の一派は紅卍字會に屬し同會員は道敎を信じ扶乩に示さるゝ神示に絕對服從してゐる。大正十二年九月一日關東の震災前に當り道院に老祖神の扶乩あり「日本東京方面に大震災起らん紅卍字會は救護の準備を整へ急に赴くべし」さ、果せる哉大震災起り救護金品を携へ渡來し、更に最近の神示に「中國の和平は日本天皇陛下の御稜威を借るに非らざれば招來する能はず」さあり。故に今回の奉天に勃發せる事變にも驚愕の色なく寧ろ當然さし中國軍人の無抵抗主義を取りし者多かりしはこの神示に服從せるが故である（中外日報ヲ參照セヨ）

次に、アメリカの中國に於ける傳道費は一時一億に上つたさ傳へられＹＭＣＡの運動は今も中國の各地に發展してゐる。そしてそれらの宣敎師の殆んど全部が、公式の又は私的のスパイさして活動しつゝある事は、少しく中國の事情に通じた人々の均しく認めるところである。英國亦然り。其他各國が中國に向けて「宗敎費」の名に於て軍事探偵費を投下してゐることは莫大なものださ云ふ。しかし乍ら宗敎をこの方面に利用する典型的な國さしてはフランスを取ることが出來るであらう。

フランス政府はその植民地のミッションスクールに莫大な補助金を與へてゐるばかりでなくそれ〲植民地政府をして、多大の「宗敎費」を計上せしめてゐる。

各種の宗敎團は帝國主義の使命に順應すべき土着人宣敎師をそれ〲養成する。そしてこれらの宣敎師は、彼等の言葉を以て言へば「すべての宣敎師は特に聖書の御旨に從つて權威に從順なるべき事を說敎に依つて信者に說き聞かせねばならぬ。」

フランスの海外に於けるカトリック、ミッションスクールの總數は一九二五年の調査に依れば四萬二千六百十三校にして、その內中國にあるのは一萬一千三十六校に及んでゐる。

而してこれらミッションは如何なる役割を演じてゐるか、吾々は彼等から次の言葉を聞くことが出來る。

幾分の不正確、幾分の誇張はあるかも知れないが、フランスの時論家達が、フランスの布敎團をば新しい地方を神の福音の下に、更にフランス國そのものに獲得する熱望に燃へた、最も確實な倦むことなきエージェントさして、稱揚することを惜しまないのに一理あることである。

布敎團の御用雜誌に載せられたこの一文の中には愼しみ深い自負さ自誇さが、愼しみ深く文字の間に盛られてあることを讀者は決してそれを見逃さないであらう。

最近羅馬フイデス通信に據るさ現下の中日兩國紛爭の中心地である滿洲には三百八十名のカトリック宣敎師あり、そのうち百七十五人が外國人で二百五人が土着人、敎徒の數は大凡七萬五千人位だらうさ報じてゐる。而して日本の宗敎新聞は、奉天に於けるフランス派のカトリック諸敎會では客月中日兵衝突以來、人類愛に富む日本兵が撤退することでもあらば同地方の治安は到底保たれないから、人道上日本軍の增兵及び永久駐在を聯盟理事會に要求すべく運動を開始してゐるさ大書特書して傳へてゐる。

以上の事實から眺める時、滿洲事變の根源はスパイ宣敎師に在りさ斷ずるも不可なきものさ思ふ。猶は吾々の注意に値ひすべき一事は各帝國主義の布敎團が、一面諸帝國主義國の勢力伸長の道具であるさ共に、他面では反ソヴエート聯邦の先鋒隊でもあるさ云ふ點である。植民地における布敎團さ民間有志の間の軋轢は、今や昔の語り草に過きない。帝國主義はすべての力を集結して、被壓民の反抗を抑へればならぬ。ごこの植民地でも「俗人」さ坊主が仲よく手を握り合つて、怖ぶべき妖怪に戰を挑んでゐる。吾々は最後に一九三〇年の十二月、中國にある一宣敎師の次の如き宣言を紹介してこの文の結末さしよう。

中國の變革が吾々さ道を同じくして進まうさ、又吾々に抗して進まうさ、吾々宣敎師はたさへ身命を抛つてでも、中國が反キリストの餌食さなり、ボルシエビズムの餌食さなるのを、極力防止すべく努力しつゞけなければならぬ。